

かんちけん倶楽部

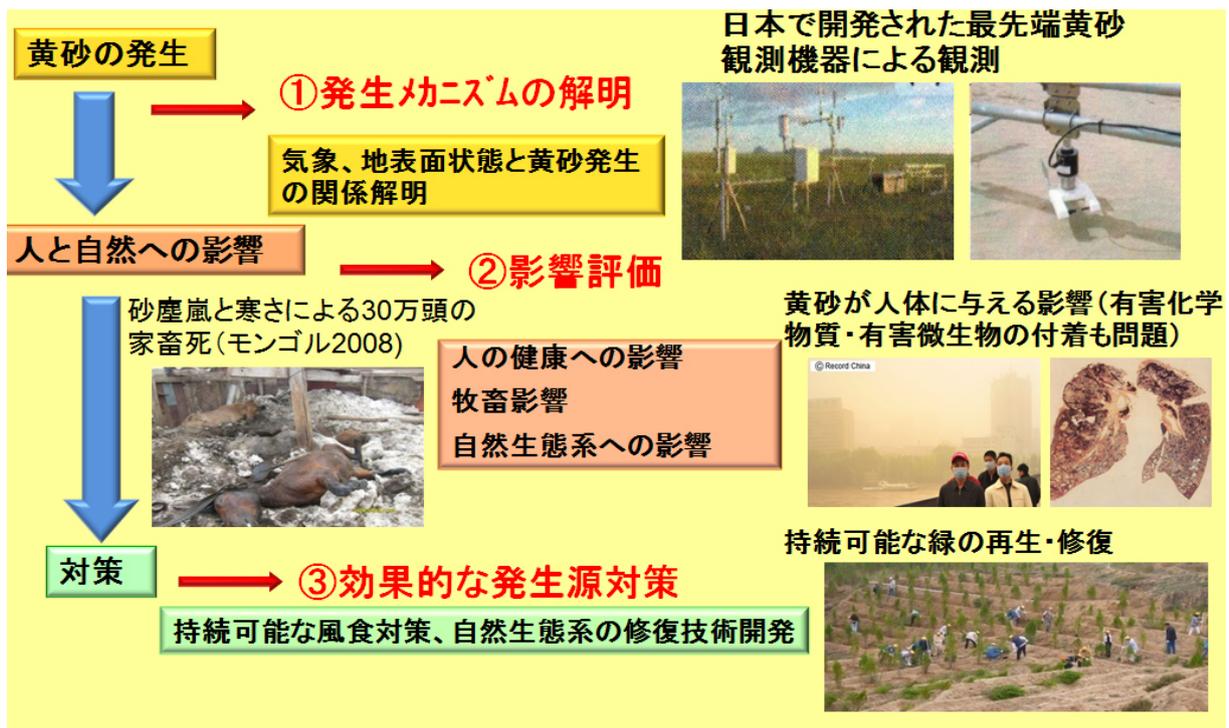
— 2012 NEWS —

■ 黄砂プロジェクトが始まりました

鳥取大学では、2011年度より、乾燥地研究センターを中心として、文部科学省特別経費事業「東アジア砂漠化地域における黄砂発生源対策と人間・環境への影響評価（通称黄砂プロジェクト）」を開始しました。これは、2015年度まで続く5年間のプロジェクトで、春先に黄砂の飛来がしばしば観測される鳥取ならではのプロジェクトです。

黄砂は国境を越えてやってくる国際的砂漠化問題の一つです。日本では、まだあまり黄砂被害の報告は少ないようですが、お隣の中国、モンゴルや韓国では、飛行機の離発着を始めとする交通機関への影響や、人間への健康被害も報告されるようになってきています。本プロジェクトでは、砂漠化に伴う砂塵嵐・黄砂被害が広がっているモンゴルや中国の乾燥地現場において、①砂塵嵐、黄砂の発生メカニズム解明に向けた研究を行います。そして、乾燥地の現場と黄砂影響をうける日本国内において、②黄砂が人間の健康、人間活動及び自然生態系に与える影響解明を行います。さらに、黄砂発生源国であるモンゴルや中国の現場において、③効果的な砂塵嵐、黄砂の発生源対策に関する研究を行います。

乾燥地研究センターでは、すでにモンゴル気候水文研究所と共同で乾燥地の気候や黄砂発生に関する研究を続けてきていますが、2011年には黄砂発生の最前線に最先端の観測機器を設置し、集中的な黄砂発生の観測を開始しました。今後の研究の展開に乞うご期待です。



プロジェクトの概要

乾地研のひと (新任者紹介)

〈准教授 鍋田 肇〉

4月、国際協力機構（JICA）との人事交流で社会経済部門に着任した鍋田でございます。乾燥地で時に土地劣化の犯人と指名手配され、時に重要な生計手段と評価もされる「畜産」を題材に研究を求められており、プレッシャーのもと準備中です。元々バングラデシュ、ネパール、パキスタン等の南アジアが担当でしたが、乾地研着任の直前はアフリカ担当でした。写真は、セネガルへの日本の協力で「エコビレッジ計画」をスタートするので、セネガル政府と協議した時のものです。鳥取に来るまで知りませんでした。鳥取とスーダンには人的交流が豊かなようです（鳥大に留学した人が多い）。私も上司がスーダン人だったことがあるので、スーダンとの研究ができればいいな、と考え始めています。単身赴任が8年になりました・・・。



〈助教 黒崎 泰典〉

この4月に乾燥地研究センター気候・水資源部門の助教に着任いたしました。専門は気候学・気象学で、黄砂発生の研究を行っています。黄砂発生とは砂漠などの乾燥地において強風で土壌粒子が舞い上がる現象で、風の強さと土壌・地表面状態（土壌の湿り具合、雪や植生の有無など）に依存しますので、黄砂が発生したときは、その原因が風と地表面状態のどちらにあるのかを調べます。強い風が吹いているのに黄砂が発生しないときは地面が濡れていたのか？雪や植生などが土壌の舞い上がりを防いでいたのか？などを調べます。写真は今年の3月、モンゴルのゴビ砂漠に行ったときのものですが、前日に降ったと思われる雪が見られました。



— 活動報告 —

■ 黄砂プロジェクト写真展を開催しました

2012年4月9日から4月19日まで黄砂プロジェクト写真展「乾いた大地 砂漠 ～黄砂のふるさと～」を鳥取大学広報センターで開催しました。黄砂発生源周辺のありさまや、黄砂プロジェクトで取り組んでいる黄砂研究の最前線を多くの写真と解説パネルで紹介しました。また同時開催で、特別写真展「西アフリカ・マリ共和国の自然・砂漠化・人々の暮らし」も開催しました。開催期間を通じて、260名の方に入場いただき、多くの方々に乾燥の世界を楽しんでいただけたと考えています。乾燥地で生じている様々な問題や黄砂問題について理解を深めていただくために、今後もこのような活動を続けたて行きたいと考えています。

黄砂プロジェクト 写真展
鳥取大学

乾いた大地 砂漠
～黄砂のふるさと～

平成24年
4月9日(月)～4月19日(木)

鳥取大学
広報センター 企画展示室(1階)

特別写真展
西アフリカ・マリ共和国
の自然・砂漠化・
人々の暮らし

主催：鳥取大学広報プロジェクト
鳥取大学広報センター
お問い合わせ：鳥取大学広報センター
http://www.u-bi.ac.jp

■ 海外の乾燥地を探索して

○西アフリカのマリ共和国を訪ねました

黄砂プロジェクトの一環として、2012年2月4日から2月14日まで、乾燥地研究センターの山中典和、篠田雅人、医学部の大谷眞二の3名で、アフリカ・マリ共和国を訪れました。マリ共和国は西アフリカで、サハラ砂漠の南に位置します。日本からは、成田からパリ経由でマリ共和国の首都バマコに入りました。現地では乾燥地研究センターで大学院修士課程を終え、マリ共和国で海外青年協力隊員として働いている源実恵氏に案内をしていただき、砂漠化の状況や砂漠化対策の最前線を広範囲に視察することができました。特に村人が積極的に植林を始めとする砂漠化対策に取り組んでいる姿、そして、過酷な現場で働いている青年海外協力隊の皆さんの姿に心を打たれました。これらの視察の成果は一部、黄砂プロジェクト写真展の中でも紹介しました。

帰国後、マリ共和国は「アラブの春」の余波を受けて、治安が悪化しています。現地で働いている青年海外協力隊の方々を始めとする日本人も国外避難状態です。マリ共和国の治安が一日でも早く回復することを祈っています。



サハラ砂漠からやってくる砂塵嵐
(写真：源実恵氏)



■ 九州イベントを開催しました

平成24年2月28日、29日の2日間、福岡市のJR博多シティ10階会議室において、当センターと九州大学東アジア環境研究機構が共催し、「乾いた大地 砂漠 ～黄砂のふるさと～」展を開催しました。

イベントでは、黄砂や乾燥地に関する特別講演や黄砂に関するパネル展示や研究紹介、砂時計工作、砂の観察などの体験イベントなどを行いました。

特別講演では、28日は「砂漠化にとりくむ」をメインテーマに、当センターの山中教授、辻本教授、九州大学の多田内教授が、29日は「黄砂のふるさと」をメインテーマに、当センターの篠田教授、九州大学の鹿島教授、佐藤准教授が講演を行いました。

研究紹介や体験イベントなどでは、熱心にパネルを読む一般の方や、工作を行う子供たちなど、多くの方に興味を持って参加していただくことができ、有意義なイベントとなりました。また九州大学東アジア環境研究機構の方々との交流をもつよい機会ともなりました。



会場入り口



特別講演

— 活動報告 —

■ サイエンスカフェ@ALRC、始めました

研究する上で感じたこと、普段の生活や海外調査の様子について語り合い情報を共有するための場として、サイエンスカフェを開催しています。お菓子や飲み物を持ち寄って、世界各地で活躍する皆さんの体験談を、写真とともに楽しんでいます。毎月、第2、第4水曜日、17時半より開催中です。ぜひご参加下さい。



<これまでのサイエンスカフェ>

“カナリア諸島” (井上光弘)

“立石さんのカンボジア日記” (立石麻紀子)

“JICA から変なおっさんが来た!” (鍋田肇)

“モンゴル 野生動物調査の旅” (伊藤健彦)

“ナイル川中流域スーダンでの調査 (気温45度、砂嵐の中)” (安田裕)

詳細はホームページをご覧ください。URL: <http://www.alrc.tottori-u.ac.jp/staff304/index.html>

— お知らせ —

☆ 乾燥地研究センター 砂漠博士

砂漠や砂漠化について実験で勉強する小学生向けの体験イベントとして、毎年夏に実施しており、2012年度は、8月11日(土)を予定しています。

☆ 乾燥地研究センター 一般公開

乾燥地研究センターの研究活動を広く一般のみなさまに理解いただくため、実験施設の開放、研究内容紹介・模擬実験、講演会等を毎年行っています。2012年は、鳥取大学の大学祭の開催にあわせて10月に実施すべく企画を検討していますので、ご期待ください。



☆ 乾燥地学術標本展示室等の休日公開

乾燥地研究センターでは、土・日・祝日の午後「ミニ砂漠博物館」を公開しています。

センターまでは、ループ麒麟獅子号をご利用ください。

乾燥地研究センターへのアクセス

【ループ麒麟獅子号】

土・日・祝日(元日は除く)・夏休み(7月20日～8月31日は毎日)運行

運行時間等詳細は、鳥取市観光協会ホームページ「ループ麒麟獅子バス」を

参照してください。URL: http://www.torican.jp/roop_bus/



【とっとり乾地研倶楽部の設立趣旨】

砂漠化防止や乾燥地農業について世界的に貢献している鳥取大学乾燥地研究センターは、世界の乾燥地研究ネットワークの中核として学術研究、人材育成に大きな役割を果たしており、地域にとっても世界に誇るべき知的財産です。そこで、鳥取大学乾燥地研究センターの活動を地域で支え、その研究活動と研究成果を広く情報発信することを通じてこの地域の発展を図るために「とっとり乾地研倶楽部」を設立しました。

発行：とっとり乾地研倶楽部事務局
鳥取商工振興協会 〒680-0031 鳥取市本町3丁目201番地
TEL (0857) 26-6886 FAX (0857) 22-0155